

〈 市民との情報共有部会 〉

まちづくり基本条例の理解を深めるには。

(世代・性別・地域などターゲットごとにどのような方法が有効か情報収集)
協働のまちづくりは、なぜ市民に幅広く正確に広まっていないのか?
現状として、

(1) 若い人が知らないA 学校で教えられていない

(解決例＝中学3年次に授業で学ぶ)

学校の先生と話しあってみてはどうか

B 地域で教える機会もない

町内会の集まりに出て話しあってみる

C 家庭で話題になることもない

若い世代が集まる場所でのアンケート

子育て世代の親と話し合ってみる

(2) 自治振興会が機能していない地域があるD 歴史や思い入れにばらつきがある

町内会との違いは何か

統一する必要はあるのか

E 地域町内の会合が男性ばかり

各世帯に一人で問題はないのか

女性の意見や感性はどう取り込むのか

F 新しい人の参入が少ない

転入しやすい環境作り

自治活動に参加しやすい環境作り

子育てしやすい環境作り

(3) 自分たちの問題を自分たちで解決するノウハウがないG 目指すべき目標を持たない

地域を将来どのようにしたいか話し合う

そもそも何が解決すべき問題かわからなくなっている

H 小規模多機能が理解されていない

今までは行政にお願いするだけだった

相談やサポートをしてもらう

I 南砺市全体の問題と地域の問題の棲み分け

南砺市の規模が大きくなって地域のことわからない

こうした予測を踏まえて、実情を調査することが必要と思われます。
その調査を、どこをターゲットに、どの程度の規模でやるのか、
面談方式やアンケート、意見交換会なども含めて、話し合っ実行します。